

## 第十一章 埼玉インターハイ

平成二〇年度の三年生

木村（岩屋） 吉谷（大村） 川畑（福岡） 松本（日野） 森（淵） 山口（諫早） 松木（式見） 川口（岩屋）

### 一 カリフォルニア

#### 【練習メニュー封印】

ある日の練習で、「この練習はお前が鶴鳴に居る間はやらない！」といってゾーンディフェンスのフットワーク練習を中止した。A選手が全力で動いていなかったからだ。その練習は、ボールマンにクローズアウトし、ボールマンが誰かにパスをしたら急いでヘルプポジションに移動するという動作を繰り返す内容だった。その練習をA選手が全力でやっているようにはどうしても見えなかったのだ。

「俺は、どういう練習をさせたら強くなるかを毎日考え、知恵を絞り出して練習メニューを作る。そうやって作り出したメニューを選手がサラッと流しているのを見ているのを俺は耐えられない」そう言ってその練習は封印してしまった。平成二〇年度のチームはそこからスタートした。

平成十九年一〇月 県総合（二位）・地区新人（優勝）スタメン 松本 松木 森 川畑 川口

#### 【案内文書】

ここからやり直します。強くなる前に拍手を貰える人間の集団にしなければなりません。

監督一代 しつけ 朝日新聞一九八五年〇一月二三（水）

指導者であれば誰もが強いチームを創りたいと願う。そのためには他のチームより厳しい練習をしなければならぬ。しかし私は、それよりも練習以前の基本的なしつけをもっと大切にす。選手である前に立派な生徒であることを求めるのである。

立派な生徒とは、学習成績の優れた生徒ではない。基本的な生活習慣が身に付いた生徒である。基本的な生活習慣、それは「おはようございます」「おやすみなさい」の挨拶ができること、食事は好き嫌いをせず食べ残さないこと、部屋の出入りの際は履き物を揃えること、などである。

それも、監督の前に居る時や合宿や遠征の時だけしかやらないのではダメだ。日常生活の中で習慣にならなければならない。なぜなら、双方死力を尽くして戦う試合は、技術や体力の差で勝負が決まることよりも人間の差で決まることの方が多いからである。

しつけをするには根気が要る。私が注意することの意味や大切さがわかるようになるのは早い、なかなか実行できるようにはならない。この「わかるけれどもなかなか実行できない」のが人間の愚かさで、例えばバス停には備え付けの吸い殻用空き缶があるのに道端にポイと吸い殻を捨てるおとなたち、彼等はみんな「捨ててはいけない」と知っているはずだがそれを実行しない。

「他人の話を聞く時は相手の目をしっかりと見ろ」「返事は大きくはっきりと」「ボールは丁寧に扱え」こんな分り切ったことを毎日毎日根気強く指導する。それがめんどくさくなったら指導者としてやっていくことはできない。その、めんどくささをがまんして根気強くしつけを続けていけば、半年も過ぎると新入生の顔から幼さが消える。それからようやく本格的な技術指導が始まるのだが、他人の話をよく聴く耳と物事を注意深く見る目を育てられた選手たちが上達するのは早い。

監督一代 上下関係 朝日新聞一九八五年〇二月十三（水）

運動部における上級生と下級生の関係は、放置しておくとは封建的になりやすい。私は、上級生が下級生をズラツと並べて無意味な説教をしたり、廊下で上級生に会った時は直立不動で「コンチワー」と挨拶させたりするのは大嫌いだ。そんなことで人間の上下関係のけじめがつくものではない。

インターハイが行われるのは毎年八月上旬である。私のチームではこの大会に参加する前と終わって長崎に帰る時とは車中の選手の座席配置がまったく違う（当時はウインターカップは春に開催されており、チームとしての最後の試合がこのインターハイであった）。

帰りの車中（JR）では三年生は末席に座り、私の周囲の座席は二年生と一年生が占める。新旧交代なのである。途中の駅でうどんを買う時は、一年生ではなく三年生がサーツとホームに散る。長崎に降り着いた翌日からさっそく新チームの練習が始まるが、三年生の働きぶりは大変なものである。まだまだ未熟な下級生を手取り足取り指導する。練習ゲームの相手をする。雑用は決して下級生にはさせずすべて三年生が引き受ける。

引退したOB気取りでゆったりと構えている三年生は一人もいない。自分が主役であったつい先日までに勝るとも劣らない真剣な目付きで下級生の動きを追う。チームを愛する気持ち、後輩を想う気持ちがそうさせるのである。それが卒業式の前日まで続く。こうして育った下級生は自分たちが上級生になった時、同じようにして次の世代の下級生を育てる。これは部活動なればこそできる人間関係であり、他のどの教育現場でも得ることのできない貴重な財産だと私は思う。

#### 【結果報告 県総合選手権】

初日

新チームとしての初めての公式試合です。感想を一言で言えば幼稚さが充満しています。この幼稚さは部活以外の生活も含めて、自分の周囲で起こることの全てに「なぜ？」を見つけ「なるほど」とか「そっか」という感想を積み上げていこうとしない生活態度の甘さに起因しています。二〇〇八年度のチームの行く末はそれがどの程度改善されるかにかかっていると云っても過言ではありません。

二日目

今朝試合会場で川口に「お前ほんとに昨日の試合は二点しか取っていないの？」と聞きました。川口はうなずきました。私が彼女に質問したのは「川口はきっちり仕事をしたように見えたのにたった二点とは…、マネージャーの記録ミスではないだろうか」と思ったからです。また今日の試合はこのところスタメンから外されていた山口の独壇場で、最近スタメンに定着した川畑はサツパリでした。川口にしろ山口にしろ川畑にしろ、このような出来事がホンモノなのかたまたまなのか、私のコメントを読まずとも当事者が自ら判定できるようになればチーム力がアップすると思います。

最終日

決勝戦の後半に川口をまったく出さなかったのは、相手をオールコートマンツーマンで追いかけて回す展開にしたからです。そうした理由は、前半の様相ではもう勝ち目はなく、そのまま何もせずに終わるのは相手にも観戦してくれている人にも失礼なので、最後まで息抜きができない試合展開にしなければならぬと思ったからです。

三月下旬から八月下旬まで誰かが故障しており、一日たりとて全員揃ったことはなく、「新チームはいったいどうなるの？」と毎日思っていたのですが、その心配はいくらか解消されたと思っています。今後どうなるかは彼女ら自身の自覚次第です。

#### 【戦評】

今年の県総合選手権には高校生が五チーム参加した。男子では佐世保工業と長崎日大と海星、女子では鶴鳴と明誠だ。男子三校は二日目で消えた。女子は二校とも最終日まで残った。が、おとなの大会に出場した高校生チームは、決勝に残った鶴鳴も含めて「幼いよなあ」という場面が随所に現れる。高校生同士の試合ではたくましく見える彼（彼女）等も、おとなの仲間に入るとそうなるのだ。

しかし、この五校の選手たちは他の高校生が得ることのできない貴重な経験をした。勝ち負けのことだけを考えると何も浮かんでこないが、おとなと試合をさせてもらった一場面一場面をもう一度思い出してみると、「なるほど」「そっか」がたくさん出てくる。それを財産にしてまた練習に励めばいい。

「キャリアがあるからうまいはずさ」ではないのだ。歳を重ねたおとなとの人間の差がそこに出たのだ。ではその差は歳を経なければ縮まらないのかというところでいい。自分の周囲に起こることを注意深くウォッチングすることだ。そうすれば二〇年の年の差を三年で縮めることができる。ほんとだよ。

文責 山崎 純男

#### 【結果報告 地区新人戦】

初日

二〇日（土）は短大の授業調整で、幼児教育学科の一年生全員に月曜日の授業を実施する日です。それは年度当初から組まれていました。短大の授業は高校のように自習という時間がありません。今日私が試合のために休講にするとどこかで補講をしなければなりません。

幼児教育学科の一年生のカリキュラムはびっしり詰まっています。月曜から金曜まで明いているコマといえば木曜日の午後四時二〇分から五時五〇分までの一ヶ所だけ。私の都合でその時間に実施するのは学生に申し訳ないので今日は授業を優先しました。

私の月曜日の授業は、朝一〇時半から午後四時一〇分まで三コマ連続です。そういうわけで今日は授業の合間にちょっとだけ会場に顔を出すだけで精一杯でした。私は引率教諭でコーチは浜本（三年生）。コーチの欄のサインは浜本愛梨となっているので、試合の途中で会場に顔を出した私はじっと座っているだけ。タイムアウトの請求も交替の指示もできません。浜本はおそらく、選手時代には味わったことのない重圧を感じたことと思います。しかしそれは、かけがえのない経験にもなったと思います。

最終日

先日行われた県総合選手権の感想に「新チームはいつたいどうなるの？と、毎日思っていたのですが、その心配はいくらか解消されたと思います」と書きました。しかし、心配が解消されただけではなく強くなっているのです。が、今日の二試合とも第一ピリオドはぶっちぎりなのに、残る三ピリオドはフツの高校生の試合しかできません。

体力がない？…違います。集中力が続かない？…それも違うと思います。それは選手に主体性がないからだと私は思います。ナイスディフェンスをしても自分で「お前、今のよく守ったなあ」と自分を誉めることができない。コーチや先輩から「ナイスディフェンス」と言われて初めてホッとします。そんな彼女達を、自分で自分を誉め、自分で自分を叱ることができるようにするのがこれからの私の仕事だと思います。

#### 【戦評】

まだまだだ。みんな若い…というより若い。つばぜり合いがない。一方が主導権を取ってダーツとやり、ちよつとしたきつかけで主導権が相手に移るとダーツとやられる。そんなやりとりでゲームが終わった。この時期では仕方がないか。来月中旬には県新人戦が行われる。その時この幼稚さがどうかわっているか。それは優勝した鶴鳴に限らず他の三チームも含めてのことだが…。

その県新人戦の戦い振りから長崎県のチームが九州で、そして全国で、どの程度やれるかが占える。ともかく「ここからだ」と、今日の四チームが思っただけ練習に取り組むことが重要だ。すべての選手と指導者が平成二六年度の長崎国体が刻々と近付いているということを意識して練習に取り組んで貰いたいと思う。

文責 山崎 純男

#### 【招待試合】於 鶴鳴

平成十九年一〇月十二日 対戦チーム

神村学園のみ

試合数 五本（二〇分×三＋一〇分×二）五勝〇敗

出場時間 松本七〇分・松木六九分・山口六四分・森六九分

川畑〇八分・川口七〇分

コメント

ウィンターカップ予選で負けた瞬間から平成二〇年度のチームに切り替わる。スタメンは松本・松木・山口・森・それにこれまで主力として働いたことのない川口（一七六cm）である。神村学園招待は川口に場慣れさせるのが目的の招待試合だった。その川口は七〇分出場して（フルタイム出場なら八〇分）得点六、反則〇である。他の選手は、松本得点二六、松木得点五〇、山口得点十八、森得点四〇。初めてのスタメンだから仕方がないがセンターが一試合平均一点強では強いチームとの対戦は難しい。どんな相手と対戦しても二桁は取らなければならない。川口は動きが遅く接触に弱いのでステイポストプレイは無理なので他の選手の動きに絡ませながらペイントエリア周辺やゴール下で得点を取れるような動きを作ってやらなければならない。

#### 【遠征試合】於 九州女子

十一月〇三日

対戦チーム

九州女子のみ

試合数 六本（四〇×一、二〇分×四）二勝三敗

出場時間 松本一二〇分・松木一一六分・山口一一三分

森 一一八分・川畑 十三分・川口一二〇分

#### コメント

川口はフルタイム出場で得点一〇。一試合平均二点である。動きは遅いがフルタイム出場させても大丈夫だからスタミナには問題ないが得点が一試合で二点では話にならない。川口に合った動きをいくつか用意してやらなければならない。ウーン…。

平成十九年十一月

九州総合選手権

一回戦

スタメン

松本

松木

森

山口

川口

#### 【案内文書】

紛失

#### 【結果報告】

強くなりました。一回戦で負けましたが、この大会に参加できたのは今後のチーム強化に大きな効果をもたらしたと思います。一〇点足りなかったのは「あ、こころへんがまだ幼いんだよな」という場面が数回出現（私が覚えているのは六回）したからです。それを除けばおおむね「ヨシ！」です。これは三ヶ月前には予想できなかったことです。

このあと大事なことは、選手一人ひとりが再び飛び立とうとするクレインズ号に乗り遅れたくないと思うことと、クレインズ号が安定飛行を続ける原動力になりたいと思うことです。

森は、相手が曲者になるとたんに借りてきたネコ状態になります。

川畑は、もう少し眼力を鍛えなければなりません。

川口は、世間の見回し方がまだのんびりしています。

山口は、試合中に居眠りをするクセがまだ残っています。第四ピリオド開始早々、居眠りしながらドライブしたので捻挫してしまいました。しばらく療養生活ということになるでしょう。

しかし、このように個々にまだ少しずつ改善すべき点が残っているにしても、誰もが何かに手応えを掴みだすはずですから、それが今後の練習に反映されると思います。

#### 【戦評】

今年の西原高校はなかなかやるはずだがそれを退けて沖縄県で優勝したOMガスはしたたかなのだろう。一方鶴鳴は、長崎で二位代表になったものの決勝戦ではストレッチに大差をつけられた。高校の新人大会レベルでは通用しても厳しい相手や百戦錬磨のおとな相手になると若さが暴露されるのだ。

というわけで、この試合は鶴鳴がOMガスにどこまで食い下がれるかが興味の焦点だったが、どこまで食い下がれるどころか鶴鳴は第三ピリオドまでまったく互角の試合を進めた。今後が楽しみだ 文責 山崎

平成十九年十一月 県新人戦 優勝 スタメン 松本 松木 森 山口 川口

#### 【案内文書】

先の九州総合選手権で山口が右足首を捻挫しました。そのひと月前の地区新人戦で二年ぶりに主力となる選手が全員揃いましたが、今回の県新人戦はまた一人欠員状態で臨まなければなりません。二年もつぎはぎだらけの間に合わせ起用をやっていると「全員揃って試合がしたい！」と強く思います。でもそれを言っても仕方がないので、山口が休んでいる間に川畑はもちろん、吉谷や木村や小田に出番が廻ってくるでしょうからこの三人をうまく使いながら戦おうと思います。

松木や森や川口には先の九州総合選手権の結果報告でも述べたように、まだ改善点が残っていますがこれだけ先が見えてきた状態でいつまでも過去の自分を引きずることはないだろうと期待したいと思えます。主将の松本はたぶん、半歩抜け出たと思います。コート上に「もうこいつからは目を離しても大丈夫だろう」という選手がいると監督は助かります。

#### 【結果報告】

初日

先週宮崎で行われた九州総合選手権で山口が右足首を捻挫しました。その時私は「しばらく療養生活ということになるでしょう」と書きました。当然この大会には出せないと考えていました。ところが山口は四日前から少しずつ練習に参加し、今日はスタメン登場となりました。これは鶴鳴にとって重大な出来事です。それは、スタメンが全員揃ったという意味で重要なのではなく、過去二年間、大事な試合になると誰かが故障か病気で欠場していたという状況に終止符を打ったという意味で重要なのです。

二日目

森は昨日も今日も沈みつばなし。替わりに今日は松木が気合い充分。相変わらず「エッ！」というミスはしますが以前とは少し味が違います。昨日、山口の替わりにコートに送り出したのは川畑ではなく吉谷でもなく木村でもありませんでした。小田です。私から「ベア！」と呼ばれた時本人は大あわて。五千<sup>ヤル</sup>のタイムが遅いどころか走ろうとしなかった小田が最近二三分台を維持するようになったので「彼女の中で何かが変わってきたのかもしれない。ひとつ試してみるか」と思って起用したのです。昨日も今日も彼女は私の思いを裏切りませんでした。

最終日

松本・松木・山口・川口の四人はこの大会期間中ずっと大崩れしませんでした。森と川畑はひとバス乗り遅れた感じです。でも次の駅で特急に乗り換えればすぐ追いつけるわけで、乗り換えるかこのまま各駅停車で行くかは本人次第です。

副産物があります。小田です。試しに…と起用しましたが確実に主力ローテーションに割り込んできました。これまで何かある度に主力が欠けていたのに、今回は主力が増員されたのです。実りある大会でした。しかし、このまま安定期に入っては困ります。今日をスタートにしなければなりません。

#### 【戦評】

見応えのない試合だった。淡々と進んだ感じだ。長崎商業は初のウインターカップ出場で、まだ三年生も混ざって二本立ての練習が進行中だからコントロールが難しいところだろう。一方鶴鳴も、故障者続出で全員揃ったことがないという不安を抱えたままの船出だったにもかかわらず、一〇月の県総合選手権、十一月の九州総合選手権で見通しが立ち、ホツとしたのか今大会は無難にまとめたという感じが否めない。このままではどこが勝っても九州制覇はできない。

文責 山崎 純男

【正月招待合宿】於 鶴鳴及び九州女子高校

平成二〇年〇一月〇二日―〇六日 対戦 札幌創成・宇部慶進・徳島城北・熊本慶誠・神村学園

九州女子・佐世保南

試合数 三二本（四〇分×一、二〇分×二六、一〇分×五）

勝 敗 十三勝十三敗

出場時間

松本五二四分・松本五五八分・山口五三二分

森三九分・川畑一七八分・吉谷八六分・木村四八分

一瀬十二分・小佐々十六分・川口五五八分

小田四九分

## コメント

全ゲームをフルタイム出場したら六一〇分である。川口は五五八分の出場で得点は一五九。松本の二五八点、松木の二四三点、山口の二三一点に次いで四番手である。しかも三桁の得点でその働きは主力選手に劣らない。どうやら主力選手の仲間に入れたようだ。

一方森は、二日目の城北戦で転倒して前十字靭帯を切ったので三日目以降は出場していない。一〇ヶ月は森不在と考えなければならぬ。そこで急浮上したのが小田である。小田は第一章の「クリスマスノート」で登場したあの選手である。小田はすったもんだでギリギリ鶴鳴に入学することができた選手でワザは多彩だが極端なスタミナ不足で厳しい試合では使えないままだった。しかし、森が使えなくなったことで急遽出番が回ってきたのである。

一月二日 好調

三日 同じく好調。しかし、城北との試合中に森が転倒。当初は内側側副靭帯損傷と置いていたが、八日に専門医に診て貰ったところ関節内血腫が見られた。ということは、前十字靭帯損傷の疑いが出てきた。九日に大学病院でMRI検査をする。

四日 動きに少し切れがなくなる。

五日 ドーンと重くなる。

六日 全敗。もちろん疲労の蓄積が原因である。しかし、そのような状況に追い込まれた時にプレイがどうのこうのとか精神力がどうのこうのとかいう小さな問題ではなく、それぞれの選手の過去の人生やこれから歩むであろうと思われる人生が浮き彫りになる。それは、誇らしいものであったりぶざまなものであったりさまざまである。全敗だったが全員がぶざまだったというわけではない。それを、一人ひとりがどう受け止めたか、二週間後の九州春季大会予選を始め、四月の春季選手権大会、六月の県高校総体に現れてくると思う。

七日 松本・松木・山口・川口・小田の五人はオフ。

八日 前日と同じ。

九日 森はやっぱりACL損傷だった。十二月のウィンターカップでコートに立たせてやるために、リハビリや練習を考えてやらなければならない。

平成二〇年〇一月 九州春季二次予選 優勝 スタメン 松本 松木 山口 川口 小田

## 【案内文書】

昨年末は二日から二六日午前中までオフにして二六日午後から練習を開始しました。その後二九・三〇の両日鹿児島に練習会に出かけてから引き続き冬期強化練習に入りました。選手にとって最も大変だったのは二日から六日まで、県内外数チームが参加して強化試合を行った正月合宿だったと思います。

合宿開始当初はバックアップの選手を使う余裕がありましたが、合宿後半になってくるとどのチームと試合をしてもスタメンでさえアップアップで溺死寸前。最終日の六日は札幌創成と九州女子と鶴鳴の三チームだけで強化試合をしましたが全敗でした。その感想については前述しているので省きます。

昨年夏から県協会医科学委員会のメンバーと大学病院の医師と理学療法士でチームを作り、バスケットボ

ール選手（特に女子高校生）の傷害（特に前十字靭帯損傷）の予防に取り組み、とりあえず長崎の四強（鶴鳴・長崎商業・純心・長崎西）をピックアップして現在抱えている傷害のチェックや動作の指導を行っています。

そのプログラムを県下全域に広めようとし、率先して取り入れている本校で一月三日にACL損傷が発生しました。森です。たぶん、このプログラムを始めてから二人目（他校で一人）だと思えます。理学療法士の岡先生に「毎日選手を見て指導している俺でさえ、注意して練習させればすぐ習慣になるはずの簡単な動作であるランニングの腕振りを直すのにA選手には二年を費やしたよ。一週間に一度来て短時間のアドバイスをするだけで結果を出そうとするのは虫が良すぎるよなあ」と話した二日後の出来事でした。

世の評論家たちが、モチベーションの問題だとかなんだとか言っただけで片付けていますけど、コーチが決してあきらめずに追求し続けるとか、選手が注意し続けて練習をするということは大変なことなんですよ。

#### 【結果報告】

初日

「俺がいくらリキんでも何も変わりはない」

「お前たちが観客や友達や親に『私を見て欲しい』と思わない限り何も変わらないのさ」

「見て欲しいと思わないお前たちを見続けるのは、コーチの俺だって辛い」

「お前たちの練習を見続けるのが辛かったら俺はだまってコートから消える」

この一ヶ月そういう状態で試合を迎えました。そして、今日の試合ではこれまでのセリフに次のセリフを付け加えました。

『「しまったー」というブレイは誰でもする。大事なはそのあとだ。』次の場面の私を見ておいて欲しい』という気持ちでブレイを続けていけば、観客は最後まで試合を見続けてくれるよ』

私が「見ていたくない」と思ったブレイや態度は純心戦で三回、長崎西戦でも三回ありました。この数は多いと思いますか？少ないと思いますか？

最終日

「お前、今のはよくがんばったよな」

「お前、今のはよく辛抱したなあ」

「今日のお前はちょっと情けなかったぞ」

そんなセリフを自分で自分に言える人間になった時は本当に強いチームになっているよ。俺はお前たちにどんな技術を教えたらいいかで悩むことは何もない。いつそんなお前たちになるのか、それを見続けさせてもらうだけだ。要約すればそういうことを今日一日中選手たちに投げかけていました。

選手たちもアタマの中ではそのことは充分わかっていきます。そして、部分的には選手のそんな思いが伝わってくる場面もありました。しかし、最終戦は集中力を回復できないままブザーを聞いた選手もいました。これが今の鶴鳴の現状です。

#### 【戦評】

重い試合だった。長崎商業は前の試合で勝ち試合を延長戦に持ち込まれて負け、ちょっとパフォーマンスダウンしていた。鶴鳴はこれといってまずいブレイはなかったが迫力に欠けたブレイが多かった。集中力を維持できなかったか？

高校生の試合は手に汗握る試合でなければならぬ。それは、接戦でなければならぬという意味ではなく、大差の試合であっても選手一人ひとりの顔つきや態度から、観衆を引きつける初々しさというか、若いエネルギーというか、そんなものがほとばしっていないかという意味だ。仙台明成高校の佐藤先生がそんなチームを作る。感心していないで長崎からもそんなチームを出したいものだ。文責 山崎 純男

## 【案内文書】

小林高校が県大会二位で出場。しかも一〇月の県新人戦でも負け、一月の九州春季選手権予選でも負けただけからたまにたまでもなさそうです。他家の台所事情はよくわかりませんが何かがあったのでしょうか？ と言えば、優勝した延岡学園に失礼な感想になります。宮崎と言えば小林という揺るがぬ歴史があるのでどうしても「何かがあった？」と考えてしまいます。

我がチームも二年間地獄を這いずり回りました。現コーチ役の浜本、現キャプテンの松本、五番の松木は一年生の最初からスタメンで試合に出ています。そんな選手を擁しながら二年間低迷が続きました。原因は傷害です。それも重症で長期療養を要する傷害ばかりです。しかも、一人が復帰したと思えばもう一人がケガをするというように、この二年間はいつも誰かがケガをして重要な試合を欠場していました。今回も同じです。森が正月合宿でACLを切りました。でも小田が浮上してその穴を埋めてくれました。

というわけで、三年振りに県大会では負けそうにないチームになりましたが、県大会で勝って九州大会や全国大会へ出るだけではおもしろくありません。どうせやるなら、観る人の魂を揺さぶる何かをコート上から発散させる試合をしたい。それは普通の人間には出せないもので、しっかりした人生観を持っている人間にしか出せないものなのですが、それを選手の中から引つ張り出そうとしてあれこれやっています。まだ試作段階ですが、その切れ端でも見せることができたらいいなあと思っています。

## 【結果報告】

これまでのコーチ生活の中で敗戦のショックが癒えずに今でも脳裏に焼き付いている試合がいくつもありませんが、それに今回新たな試合が付け加えられました。何事も起こらず、淡々と試合が流れていき、淡々と負けた試合だったからです。

私の指導力不足で…などと儀礼的なお詫びのことばは言いません。  
敗戦の将兵を語らず…ではなく兵を語らせて貰います。

私は最近「このチームはひょっとしたら九州で優勝してもおかしくないチームになったかもしれないなあ」という感想と「でも一回戦で負けることがあるかもしれないチームでもあるよなあ」という感想の両方を持っています。その後者が今回現実になりました。後者の感想の根拠は、一月の九州春季戦長崎県予選最終日の結果報告で述べたことの繰り返しです。

というわけで「どうせやるなら、観る人の魂を揺さぶる何かをコート上から発散させる試合をしてこい」と、この大会の案内文書に書いたことは空回りに終わりました。無念です。

でも、身体的能力の優れた選手や、打てば響くような利発な選手たちばかりに囲まれた時に張り切ってコートをするのは誰でもできること。久しぶりに神様ということばを使いますが、難しい問題に直面する度に「また神様が俺を試しているな」と考えてチャレンジしてきたので、今回もなんとかして乗り切りたいと思います。

## 【戦評】

コート上の選手やプレイぶりから受けた感じは、淡々と進み淡々と終わった、だった。今年の九州はレベルダウンだと思ふ。どのチームを見ても「ここは全国大会でも暴れそうだ」というのがいない。しかもそれらのチームが焦りもせず淡々と試合をしているのである。ひょっとしたら九州バスケット界の危機かもしれない。

文責 山崎 純男

## 【カリフォルニア】

三月五日 山崎純男のブログより

カリフォルニア大学バークレー校とスタンフォード大学に行ってきました。目的は、ワシントン州立大学の試合観戦です。ワシントン州立大学のヘッドコーチであるトニーベネットはキャシーベネット（慎子のコ



ーチ)の弟で、ディックベネットの息子です。

本日は二月二一日と二三日のワシントン州立大学のホームゲームを観に行くつもりでしたが、ワシントン州立大学のホームタウンであるブルマンは、ロッキー山脈の麓でアイダホ州との州境に近く、二月末というのは真冬の北海道に行くよりも大変で、レンタカーで動くなどんでもないので仕方なく、二月二十八日と三月一日に行われたアウェイゲームを観に行ったわけです。結果的にはカリフォルニア大学バークレー校とスタンフォード大学の二校を訪問することができてとても充実した旅をすることができました。

実はこの旅の目的はもう一つあって、この夏に久しぶりにチームを連れてアメリカ遠征することを計画しており、その訪問先を私は勝手にワシントン州立大学と決めて、その下交渉のためにトニーベネットに会うと思ったのです。しかしそれは実現しませんでした。

理由は、同行する予定だったGUYが行けなくなったことと、カンファレンスゲームの終盤の緊迫した状況ではトニーベネットに「ちょっと話を聞いて欲しいんだけど」などと言える雰囲気などまったくなかったからです。ファイナル四のコーチともなればセキユリティが固く、ひよっとしたら東国原知事にアポをとるより難しいかもしれません。父親のディックベネット(ウイスコンシン大学をNC A Aファイナル四に導いたコーチ)も知っているし、姉のキャシーベネット(エバンズビル大学とインディアナ大学をカンファレンスチャンピオンに導いたコーチ)も知り合いなので、トニーベネットにも会えるかも知れない(実は、GUYを通じて事前に何度もメールでアポを取ろうとしたのですが、多分トニーに話しが行く前にセキユリティではねられていたのだと思います)と思ったのがとんでもない思い上がりでした。

でも、試合を観て「ワシントン州立大学に日本の選手達を連れて行きたい」という思いはますます強くなりました。「選手というのはこんなふうには鍛えるんだ」「チームというのはこのように創り上げるものなんだ」という事が至るところにちりばめられているチームでした。ただスタンフォード戦を観ていて苦しかったのは試合の流れが組織として完璧に近いチームは時としてこのようなエアポケットに入ることがあり、それを抜け出せなくて負けることがあるという見本のような展開になったことでした。

ワシントン州立大学はずっとリードしていましたが、最後の二分でスタンフォード大学にひっくり返されて負けてしまいました。後半一〇分過ぎからは、ワシントン州立大学がまだリードしているにもかかわらず、「このまま行けばまずい。」「ここで俺ならどうする?」「いつか?」「いつを一時ベンチに下げるか?」などなど、ずっと考え続け、時には試合を観ないで頭を抱えて足もとのコンクリートに目を落として思いを巡らす場面がしばしばありました。

その解決策も含めて、この夏はどうしてもトニーベネットに会いたいです。昨夜長崎空港から自分のクルマを運転して我が家に帰り着くまではとても緊張しました。それは、スタンフォード大学内の中央分離帯のない道路で、カーブしたあとの三叉路で信号待ちをしていた時にとんでもないことをしかしたことが一度あったからです。

信号待ちをしていると向こうから私のクルマめがけて走って来るやつがいるじゃないですか。「エ?」と思ったのですが「ア!」と思ってすぐハンドルを切って車線を変えました。ガラーンとしてクルマが一台も走っていませんでしたので、カーブしたあとうっかり左車線に入って信号が変わるのを待ってたんですよ。アメリカは右側通行ですから相手は当然私のクルマに向かって走ってきますよね。

試合がない日はショッピングです。あの有名なケープルカーにも乗りました。終点にはターンテーブルがあるんですが、なんとケープルカーの方向変換は人力なんです。これにはビックリしました。歌にもなったほど有名なチャイナタウンにも足をちょっとだけ踏み入れましたがすぐ脱出しました。

三月七日 山崎純男のブログより

私はアメリカではレンタカーを使います。サンフランシスコからスタンフォードのあるパロアルトまでの道順はなんなく行けたのですが、高速道路一〇一号線から県道八二号線に降りたあと、スタンフォード大学

のメイプルスバビリオンに行くのに最もわかりやすい道順のセラastreetをうっかり通り過ぎてしまい、慌てた私は次の入り口であるガルベズストリートまで見落としてしまってパーム通りから大学敷地内に入る羽目になりました。

そうになると、大学敷地内にデパートが四つもある広大な敷地ですから、自分が敷地内のどこに居るのかもわからなくなってしまうのです。一昨日の報告の中でリターンをしたあとすっかり左車線に入って信号待ちをしていたというのはその途中のひとコマなんです。あとでわかったことですが、メイプルスバビリオンの目の前の通りであるキャンパス通りは何回も通っていました。

ではなぜメイプルスバビリオンになかなか辿り着かなかったのかというと、私が勝手にメイプルスバビリオンという建物を、空に向かってそびえ立つてつかい建造物だと思い込んでいたからです。アメリカのバスケット試合会場というのは皆さんご存知のようにすり鉢状の観覧席に取り囲まれた底にコートがあるという大きな建物です。前日に訪れたカリフォルニア大学バークレー校のハスバビリオンは遠くから観てもすぐわかる大きな建物でした。

ところがスタンフォード大学のメイプルスバビリオンは地面を掘ったすり鉢状なので、地上に見えているのは入口だけ。ですから景色としては周辺にある校舎よりも低い平屋なんです。初めて訪れた人は絶対見落としますよ。というわけで四〇分ぐらい学内をうろろしてました。

さて、試合が終わりブックスストアで買い物をしてクルマに戻り、エンジンをかけようとしたがうんともすんとも言わない。私はアタマが真っ白になりました。あたりを見回すと学生がひとりいます。「こいつに頼むしかない！」と思って、すみません、俺サンフランシスコからレンタカーでここまで来て試合を観て、帰ろうとしたけどクルマが動かないんだ。レンタカーの会社に電話かけたんだけど携帯持っていないんだ」と言うのと、「あ、ボク携帯持ってます。かけてやりますよ」といって電話をかけてくれました。

でも「呼び出し音は鳴ってるんですが誰も出ませんねえ。じゃあこつた方がいいですよ。あの通りの向こうにガソリンスタンドがあるので、あそこを尋ねればメカに詳しい人がいますよ」と言っ、ガソリンスタンドの場所を教えてくださいました。「ありがとね」私は彼にお礼を言ったあと歩いてガソリンスタンドに行きました。

そしてレジの女性に「奥に居る人はこの従業員？」と聞きました。彼女は「そうだけど、どうしました？」と聞くので、こうこうしかじかと説明をすると、その女性が従業員を呼び私の説明を彼に伝えました。彼は私にいくつか質問をしましたが、私は「ガス欠やバッテリーが上がったのではないと思う。たぶん私がアメリカ車に詳しくないので何かの操作を間違ったためにセキュリティシステムか安全装置が作動して動かなくなっただんだと思う」と、何度も主張しました。

盗難防止や事故防止のためにそのような装置が設置されている車がアメリカにはよくあるんです。ですからそのことを彼が電話でレンタカー会社に確かめてくれました。そして彼は、奥から移動用のバッテリー充電器を持ってきてボンネットを開け、クルマのバッテリーに充電器を繋ぎ、「エンジンをかけてみてくれ」というので私がキーを捻ってアクセルを踏むとキュルルバババツとやってエンジンがかかりました。

私は、「エーッ？なせ？」と言ったのですが、彼はにこにこしながら「たぶんヘッドライトを点灯したまま駐車してただんだと思うよ」と言います。冷静になって考えてみると、出発時はヘッドライトの点灯は自動オン・オフになっていたのですが途中で私が手動に切り替えてしまったために、駐車後エンジンを切っても点灯のままになっていたらしいのです。バスケットやホテルやショッピングで、話す内容が予測出来る会話はなんともないのですが、このように不測の事態が起きて、こちらの状況を相手に伝え、相手の説明を聞き取るという会話の繰り返しは疲れます。再び動くようになったクルマを運転してアバンテホテルに着いた後はホテル内のレストランに行くのもめんどくさくなり、チーズをかじってビールを飲んで寝ました。

平成二〇年〇三月二七日、三〇日 対戦

市立柏・旭川藤女子・徳島城北・福井商業・佐久長聖

札幌創成・倉敷翠松・松戸聖徳・神村学園・熊本慶誠

試合数 十四本(二〇分×十四) 勝敗 十〇勝四敗

出場時間 松本二五〇分・松木一五六分・山口不参加

森不参加・川畑二三〇分・吉谷一五二分

木村六八分・小佐々七五分・峰二〇分

川口二〇九分・小田二四〇分

## コメント

森は正月合宿でACLを切ったのでこの合宿には参加できない。加えて出発直前に手首骨折が発覚した山口を長崎に残しての遠征となった。山口の替わりは新入生の峰(橘中)にした。飛行機に例えれば片肺飛行である。しかも離陸時からの片肺飛行だ。

二九日の午後一発目の試合で今度は松木がブロックショットして着地した際に右足首捻挫。さらに次の試合ではセンターの川口がリバウンド争いの時に肘を相手選手の歯で切ってしまった。相手の選手は前歯が二本折れてしまった。川口のケガは傷口が深く、しかも関節包も痛んでいたら感染が怖いので直ちに病院へ連れて行って処置をして貰った。

というわけでJOMO合宿最終日の三〇日は片肺飛行どころかエンジン停止で胴体着陸しなければならぬ状態になった。しかし前夜私は、宿舎に到着した後バスの中で、これまでさんざん悪態をつき「お前達と一緒に場所に居ることさえ俺にとっては苦痛だ」と言い続けてきたセリフを撤回した。選手たちはそれぐらいがんばり、それぐらい強くなった。やっとみなさんに視て貰えるチームになった。選手に感謝！だ。

## 【徳島合宿】於 徳島城北高校

平成二〇年〇四月〇一日、〇三日 対戦

夙川学院・徳島城北・札幌創成・香川英明・新居浜商業

福井商業・広島皆実

試合数 十二本(二〇分×十二) 勝敗 五勝七敗

出場時間 松本二四分・松木欠場・山口不参加・森不参加

川畑六一分・吉谷二〇九分・木村二〇八分

小佐々二七分・峰三九分・川口欠場

小田二三分

## コメント

毎年、JOMO合宿から引き続きマイクロバスで陸路(東名 名神 淡路大橋)を走って徳島で合宿をしてからまた陸路(徳島道 瀬戸大橋 山陽道 九州道 長崎道)で長崎まで帰る。強行軍だ。

徳島合宿初日の四月一日は、飛車(松木)・角(森)・金(山口)・銀(川口)が落ち、王(松本)と桂馬(小田)と歩兵でしか戦えない状態。それにしてもよく戦った。特に小佐々と新入生の峰は春季戦から戦力として計算できることがわかった。勝ち負けの数だけでは表せない「強くなった！」という確かな手応えを感じた合宿であった。

## 二 残り一秒

平成二〇年〇四月 県下春季選手権 優勝 スタメン 松本 松木 山口 川口 小田

## 【案内文書】

昨年のこの大会はケガをしている選手がいるか、ケガが治ってもリハビリ中の選手が多く、戦いに臨む状態ではなかったのですが、その状況は今年も同じです。春休み遠征前に山口が手首を骨折し、遠征中に松木

が足首を、川口が肘をケガしたのでこの案内書を書く時点でのチーム状態は昨年とまったく同じなのです。しかし昨年とは内容がまったく違います。

本来のスタメンは松本・松木・山口・川口・小田で、この五人のバスケットは三月上旬から中旬にかけて「これが鶴鳴バスケットだ！」と思わせてくれるプレイを随所に見せてくれるチームになっていました。春休み後半は松本・吉谷・木村・小田・小佐々のスタメンで戦わなければならなくなりました。しかしこのメンバーでも「おー、このメンバーでもやっぱり鶴鳴バスケットは健在なんだ」と思わせるプレイがたくさん見られるようになり、徳島合宿では他のチームの監督から「参考にしたいのでビデオを撮らせて貰ってもいいでしょうか」と言われたほどです。

前述のエントリーの中で、松木・山口・川口は今回の試合に出せるかどうかわかりません。しかしそのことについては何の憂いもありません。それは、残りのメンバーでも勝てるからだと言う意味ではなく、残りのメンバーで戦えば負けるかも知れないけれども、もう以前の鶴鳴ではないということがはっきりしているからです。

「早くこの場から立ち去りたい」とか「こいつらと一緒にの場所に居ることが苦痛だ」と感じるような場面はもう二度と出てこないだろうと言う意味での「憂いなし」なのです。「あの連中がここまで成長するとは…」と、私自身がキツネにつままれたような気分です。

#### 【結果報告】

初日

背番号十六。案内文書では上瀧でしたが大会前日の練習で捻挫したので変更しました。軽い捻挫ですが、「大事な試合前にケガをする。年度末の忙しい時期に風邪を引いて休む。どちらもその人物の実力だ。不運であれ偶然であれ、周囲の人々はそれも含めてそれをその人物の評価の基準とする」そう言ってエントリーから外しました。技術を学ぶ前に、体力をつける前に、現実の世界の厳しさを味わわせるのが私のやり方です。非情ですが…。

二日目

今日現実の厳しさの洗礼を受けたのは福井。後半、交替させたのですがセンターポイントからではなくベンチ前からコートに入ってしまったんです。ワンプレイもしないうちにすぐまた交替。ベンチに下がった福井に向かって私は「ルールやマナーを知らないとかルールやマナーを無視するヤツに運転免許は与えられない」と言いました。

最終日

決勝戦で長崎商業に負けました。スコアは六一対五八。残り二四秒。スコアは五八対五八の同点で鶴鳴の攻撃。ドリブルでボールを運んできた松木がハーフラインを越える手前で右サイドの山口にパスをしたのをインターセプトされて単独ドリブルの速攻に持ち込まれました。それを松木は阻止しようとしてショットブロックにいきました。それがファウルになり、しかもバスケットカウント。松木がバックコートからボールを運んでくる時「危ないなあ」と思った予感が当たりました。松木はスピードもありドリブルも巧いのですが時々危険をはらんだプレイや思いこみの強いプレイをします。しかしそれが起死回生のプレイや相手を突き放すプレイを生む彼女の特性でもあるので仕方ありません。

その一本以外は私がベンチから指示語や刺激語をとばさなければ動きが作れないような試合ではありませんでした。春休みからずっとケガの治療で戦列から離れていた松木・山口・川口の心身のコンディション調整がちょっとだけ間に合わなかったのだと思います。その三人も、ブランクの動揺が表情や態度に出ることはまったくなくなかったので、負けはしましたがチームは確実に成長しているのだと見てやりたいと思います。

#### 【戦評】

長崎商業は終始崩れなかった。鶴鳴はリズムをつかみかけたかと思えばここぞというところで歯車が合わず、苦しい試合展開を強いられた。

鶴鳴のリズムを狂わせたのは長崎商業のインサイドのディフェンスだと思う。一歩間違えば完全にノーマークになるのを覚悟でインサイドへのパスのスタイルを狙うので、鶴鳴が用心して一瞬様子を見る。そこでリズムが崩れる。試合を分析すればその一点に尽きるだろう。

しかし鶴鳴も簡単にギブアップしない。終盤間に松本のドリブルスタイルを皮切りに残り二九秒で五八対五八の同点に追いついた。しかも同点のまま最後の攻撃は鶴鳴ボール。そこで今度は長崎商業の野口が鶴鳴のパスをスタイルしてレイアップシュートに持ち込み、ファウルされたもののそれを決めてバスケットカウント。それで決着が着いた。

鶴鳴松本のスタイルと長崎商業野口のスタイルは、オフェンスのイージーミスではなく、松本と野口の気力充実した渾身のプレイだったと思う。拍手！

文責 山崎 純男

【倉敷遠征】於 倉敷市体育館

平成二〇年〇五月〇三日〜〇六日 対戦 倉敷翠松・宇部慶進・徳島城北・熊本慶誠・福井商業

広島観音・夙川学院・

試合数 十三本（二〇分×十三）

勝 敗 八勝五敗

出場時間 松本二二四分・松本二三〇分・山口二一六分

森欠場・川畑欠場・吉谷十三分・木村四四分

小佐々六二分・峰十七分・川口二四一分

小田二二九分・上瀧二四分

コメント

五月六日の慶誠戦（三二対四一で負け）と夙川戦（二七対三一で負け）は許せん！

平成二〇年〇六月 県高校総体 優勝 スタメン 松本 松木 山口 川口 小田

【案内文書】

森はまだ試合に出せません。川畑は二〇日からやっと練習に参加し始めました。でも、総体の試合には出せなくても二人ともエントリーしました。理由を説明します。県高校総体だけは体育館で推戴式というのをやります。各部活動ともユニフォームを着てステージに上がって全校生徒にお披露目をするんです。その舞台に立たせてやるために二人をエントリーしました。

森と川畑がウィンターカップ予選には完全復帰したとしてもここでは全校生徒の前で推戴式は行われません。県高校総体というのはスポーツ活動をする高校生にとって大イベントなのです。二年生にはまだ来年が残されていますがこの二人にとっては高校生活最後の晴れ舞台。特に昨年この大会でスタメンだった森。例えば今回の試合には出せなくてもそんな彼女を今年は見送り側に立たせるわけにはいきませんでした。私は自著「チームを創る」にも書いてるように非情に徹するコーチです。ですから毎年こういう措置をとるかというところではありません。今年はいろんな条件がからみあってこのような人選になりました。

倉敷遠征から帰ってきた翌日（五月七日）急に思い立って川口のリフォームに取りかかりました。急に思い立ったので、高校総体では台所の改装ぐらいいまでしかお見せできないと思います。「え？高校総体直前になって改装？大丈夫か？」と思う人が居るかもしれませんがね。私はまったく気にしていません。それに加えて、川口より少し遅れて松本と松木のシュートフォームの改良にも着手したんですから。

三月下旬から故障者続出で、メンバーが揃わない時期がありました。チームは確実に上向きです。普通なら「このまま温存…」とか「このまま何事も起きないように…」と思うところです。私は三七歳の時に腎臓を悪くして長期入院した時に囲碁を覚え、少々たしなみますが勝負の途中で「この碁は勝ったぞ」というのが見え、安全策をとっているうちにズルズルと相手につけ込まれて負けた経験が何度もあります。囲碁から

私は「ここからさらに…」という積極的な気持ちで勝負事では大事なんだということを学びました。今回のリフォームも同じです。「これが出来なければ…」という追い込まれた気持ちからのリフォームではなくて「さらにこれができれば…」という前向きな改装ですから絶対マイナスになるとは思いません。現に松本と松木のシユートフォームは現時点で定着しています。

私のコーチングセオリーの中に「試合が近くなったらオフェンスをいじりすぎるな」というのがあります。それを自ら破ったのは四五年のコーチ人生の中で初めてです。今年のチームに限っては、少しばかりの財産を必死で守ろうとするより、この財産をさらに増やそうとすることの方が大事だと思ったからです。(後日談)この案内書では触れていませんが、この年の選手たちは安心させずに常にムチを入れておいた方がいい選手たちが多かったです)

#### 【結果報告】

初日

佐世保開催は宿泊OKなのですが毎日長崎からマイクロバスで通います。学校からの依頼でも命令でもありません。学校の経費節減のための自主自粛です。行きは高速道路を使って東彼杵インターで降りてあとは一般国道を走りました。一時間三十分かかりました。帰りはずっと一般国道を走り、時津経由で帰ってみました。二時間かかりました。明日は寮を七時一〇分に出て高速道路利用で行きます。今日の試合のコメントは何もありません。

二日目

純心戦後半開始すぐ、相手ベンチ前のベースライン際で起きたルーズボール奪取争いで鶴鳴の選手が相手選手と衝突して倒れました。なかなか起きません。ベンチから手助けに行って帰ってきた選手に「誰？」と聞きました。「ミチです」という返事が返ってきました。「膝？足首？」と聞きました。「ぶつかった時に下まぶたを切ったみたいで血が出ていました」という答えです。「なんだ、そうか。よかつたじゃない」と私は言いました。

その後試合が少しもたついたのでタイムを取り、「ミチのケガが膝や足首だったらずいけど、まぶたを切ったぐらいなら血が止まればできるじゃないか！難局を乗り切るには事件の一つや二つ起こるよ！何うるたえてるんだよ！これぐらいでよかつたと思え！」と喝を入れました。

三日目

安心から気のゆるみが出た一日でした。ゆるみが具体的な現象として出たのが山口の五反則退場です。勝負の行方を左右するような場面や点差ではなかつたのですが、私はケガをする選手と五反則する選手が大嫌いです。ケガは不可抗力の場合もありますが五反則退場は絶対防げます。では山口だけが気がゆるんでいたのかというところではありません。チームのゆるみが山口の五反則というかたちになって出現したのです。明日もこんな状態なら許さんぞ！

最終日

私は何回も修羅場をくぐってきてますから県高校総体のコートに潜む魔物には翻弄されませんが、二年間優勝から遠ざかっている選手には初体験。やはり魔物に揺さぶられました。が、揺さぶられても潰れなかつたところが三月以降の成長の証だと思えます。ちょっとリズムが崩れた時、「ここでタイムアウト！」と思つたことが何度もありましたが、「俺がバタバタしては成長した選手に失礼かな」と思つて思いとどまりました。

#### 【戦評】

六年後の長崎国体に向けての士気高揚のため、NHK長崎放送局が、県高校総体は開会式だけでなく競技も放送しようという方針を打ち出した。皮切りの今年はハンドボールとバスケットボールである。やはりテレビ放映はいい。試合の当事者だけでなく、運営する人たちも観客も盛り上がる。来年はバスケットではなく他の競技の放映になるだろうが、こういう機会を捉えて「順番だから」ではなく「次回もまたバスケット

ボールを放映したい」とメディア側に言わせるようになりたいたいものだ。

さて試合は決勝戦にふさわしい好ゲームとなった。男子のように華々しいおおわざはないが、激しいつばぜり合いが続いた。後半開始八分過ぎから鶴鳴の足がバタツと止まった。長崎商業のチャンスだが、そこまですり上げてきた疲れが長崎商業にも現れ、こつちも足が止まった。鶴鳴に勝利が傾いたのは「ここが正念場だ!」という場面でスティールやりバウンドボール獲得が少し長崎商業より多かったからだろう。見応えのある試合だった。

文責 山崎 純男

平成二〇年〇六月 九州高校総体 二回戦 スタメン 松本 松木 山口 川口 小田

#### 【案内文書】

二月の九州春季選手権大会の報告書で、このチームはひよっとしたら九州で優勝してもおかしくない力を持っているが、その一方で一回戦で負けることがあるかもしれないと述べました。

その後、個々の選手の表情や動きから、このチームはやっぱり強くなってきていると感じる場面が多くなりました。やっぱり強くなっているという感じは、春休みの練習から春休み遠征にかけて、さらに県下春季選手権、五月の倉敷遠征、先日行われた県高校総体とずっと維持しています。

私が何よりそれを強く感じたのは県高校総体でリズムが崩れた時、「ここでタイムアウト!」と思った私に「俺がバタバタしては成長した選手たちに失礼かな」と、タイムアウト請求を思いとどまらせた彼女らの目付きや態度でした。この九州大会では「二年も辛抱したんだ。思い切りはじけようぜ」と言って選手たちをコートに送り出したいと思います。

一年生の峰と上瀧は、県高校総体後さらに力強くなりました。でも今大会はエントリーしていません。県高校総体にはエントリーしてやれなかった二年生を連れて行くからです。峰と上瀧はインターハイには連れて行くので今回はがまんして貰います。

経費節減を図りながら一人でも多くの選手を大きな舞台に立たせてやるのはなかなか難しい仕事です。寄付を募ったり保護者に経費の一部を負担して貰えば簡単にできることですが、そのやり方は鶴鳴バスケット部に所属してさえすれば恩恵を受けることができるかと安易に考える選手を生み出してしまつようでは私にはできません。これは私のこだわりです。ご理解ください。

#### 【結果報告】

開会式当日、べっぴんアリーナに到着してから旅館で夕食を摂るまでの間に四件、「え?なんでそんなことを?」「その態度不愉快だなあ」「え?またあ?」「それは解釈が違うだろう」と、私を激怒させる出来事が相次ぎました。不機嫌を露わにした顔で選手とともに夕食を摂りたくなかつたのでその日の私の夕食はキャンセルし、コンビニから買ってきたおにぎりを自室で食べました。翌日の朝食も自室でおにぎりを食べ、選手たちとは一緒に食べませんでした。一晩寝たのに不機嫌そうな表情が治っていなかったからです。

若い頃ならそんなことがあった時はベンチでふてくされて口くいな采配をしましたが、それはずっと昔に卒業したので、今では本番の試合でそんな態度は取りません。一回戦は試合内容のことだけでなく、選手の進路のことまで考えて、出場のタイミングや出場時間も調整しました。一回戦の選手の動きは完璧でした。それは二回戦(中村学園)の前半まで続きました。

ですが、二回戦の後半開始直後の軽率プレイを契機に心身の乱れが選手間に次々と伝染し、あつという間に全員が三月以前の選手たちになってしまっていました。それは、タイムアウトをとつても選手交替をしてモディフィエンスを変えても回復しませんでした。

私を激怒させた四件の出来事がまだ出現するようなチームだからこのような結果を生み出すのか、私の激怒が選手たちを萎縮させたからこのような結果になってしまったのか、その因果関係は究明できません。もし前者だとしたら三月以前のビョーキが今後再発しないように、あらゆる手段を使って万全の策を講じなければなりません。後者が原因だとしたら、そんなチームは解散してしまつた方がいいと思います。

いずれにしろ、今月いっぱいにはその方向性が見えるようになるでしょうから、それまでは私の耳と目のアンテナを一杯に拡げて選手の一挙一動を観察していきたいと思えます。

追伸 「その態度不愉快だなあ」の中身は、私に生意気な態度をとったとか、反抗的な態度を取ったとかではありません。そんなことをする選手はいません。誤解を招きそうな文言だと気付いたので訂正します。

【戦評 対中村学園戦 前半四〇対三六を大逆転】

中村学園はコマが揃っている。頻繁に選手交替が行われ、どれがベストメンバーなのかわからない。しかしプレイは若い。プレイスタイルは確かに中村学園スタイルだがどこもなく幼稚さが漂っている。それもそのはず、二年生と一年生ばかりだからだ。福岡予選では二位での出場のだが激戦地区での福岡では若さが露呈したのかコマが揃ってはいるが精華に負けた。

若いということはリズムに乗れば止まることを知らないという強さにもなる。鶴鳴との後半はまさに若さの爆発だった。それにしても、鶴鳴の前半と後半の違いはどうしたことか？まるで違うチームが試合をしているようだった。こちらは若くはない。ならば精神面の問題か？

中村学園はインターハイまでにはまだまだ伸びるだろう。若いだから。鶴鳴はもう一度一人ひとりが自分の内面をチェックして臨む必要があるだろう。 文責 山崎 純男

【山口遠征】於 光市スポーツ交流村

平成二〇年〇七月十九日～二一日 対戦 福岡少女・山口少女・熊本商業・山口成女

試合数 十二本(二〇分×十二)

勝 敗 四勝一〇敗

出場時間 松本二一七分・松本二三二分・山口二一六分

森欠場・川畑欠場・吉谷〇三分・木村九五分

小佐々一六分・峰十七分・川口二〇九分

小田九五分

コメント

この合宿は例年国体チームの強化を目的として行われる山口県協会の招聘事業である。昨年は私が長崎少女女子の監督を降りたので新監督と交渉してくれと言ったが山口県側は交渉しなかったようだ。今年は「鶴鳴単独で来てください」という要請があったので参加した。単独チームで参加したのは鶴鳴と熊本商業の二チームだけだった。だからほとんどの試合は負け、勝ったのは対熊本商業との三勝と対福岡少年女子のBチームとの一勝だけだった。

こうして招待される錬成会であったり、鶴鳴が招待して実施する正月合宿であったり、そこに集まるチームや監督は「鶴鳴と相まみえることが楽しみだ」と思っただけで参加してくれるのだと今回の錬成会であらためて思った。練習試合や合宿は、強いチームだからというだけで厚遇されるわけではない。そのチームから醸し出される空気が心地よいかから相手をしてもらえるのだ。

鶴鳴の選手たちには、こうして声をかけてもらい、練習試合ができるということに当然とせず「自分たちに期待して貰えるものは何か」を考え「自分たちはその期待に応えることができるのか」と、自分を見直してもらいたい。それを怠れば、先輩たちが働いてこつこつ築いてきた実績の上に偉そうにあぐらをかいているフツの高校生になってしまう。

平成二〇年〇八月 インターハイ 二回戦 スタメン 松本 松木 山口 川口 小田

【案内文書】

七月十七日(木)。やっと宿舍決定通知書が届いたのでこれですべての資料が揃いました。宿舍は群馬県の伊香保温泉です。埼玉県の本庄児玉ICから関越道に乗って三六km先の渋川伊香保ICで降ります。そこ



から県道三五号線を西へ約一〇km進むと、伊香保CCを過ぎたあたりの右手にホテル天坊があります。長崎県内で試合があるとすれば、長崎から大村シーハットに通うのと同じくらいの距離と時間です。県高校総体はもつと遠い佐世保まで毎日通ったのだから平気です。

さて本題。一年生の上瀬はインターハイには必ずエントリーするからという理由で九州大会のエントリーは二年生に譲らせました。ところが九州大会後上瀬は小学生時代に傷めた腰痛が再発。しばらく練習ができないのでやむなくエントリーを変更しました。三年生の森も同じ条件ですが、三年生と二年生は立場が違うので同じ扱いをするわけにはいきません。コーチとしてももっとも苦しいのが、三年生の進路決定とインターハイやウィンターカップのエントリー決定です。

九州大会以後、中学生の男子とたくさんスクリメージをしました。中学生の男子は新チームに切り替わった頃は鶴鳴の相手になりません。四月になると少しは練習相手になるかなというレベルになります。七月になるとなかなか勝てなくなります。体格とスピードについて行けない場面が出てくるからです。本当は七月十八日までずっと中学生男子相手にスクリメージをやって、十九日から恒例の山口遠征に出かけるつもりでしたが、中学生男子とのスクリメージは十七日までとし、十八日を臨時休養日としました。

山口遠征の結果も加えて案内文書を発送するのがよいと思いますが、そうすると発送が二二日になりますのでそれでは遅すぎます。十九日から三日間の山口遠征はきつとがんばってくれることを期待しながら本日（十八日）案内文書を発送します。鶴鳴の試合を観戦できてよかったと思って貰える試合をしてきたいと思っています。

#### 【結果報告】

七月二二日から二五日の出発日までオフにしたことは私のHPでお知らせしました。長崎を発ったあとは二六日と二七の二日間JOMOで調整合宿（参加五チームによるスクリメージ）をし、二八日に現地入りしました。調整合宿は個々の調子を見ながら取っ替え引っ替えの選手起用ですから主力五人で四〇分戦ったかどうかという見極めをする材料にはなりません。というわけで蓋を開けて見なければわからないという状態で初日を迎えました。

初戦の埼玉栄は一年生と二年生ばかりのチーム。しかし、中学時代のジュニアオールスターの優勝経験者を軸に、泳がせればやりたい放題やってくる選手ばかりです。こんなチームとやる時は付き合い方が難しいです。第四ピリオドに付き合うのをやめたら相手もおとなしくなってくれました。この初戦の戦いぶりを見て私は「いける」と確信しました。

が、二日目は淡々とゲームを流すだけで、常にリードはしているもののすつきりしません。選手の気持ちの奥底から湧いてくるものが私に伝わってこないのです。そんな選手たちの目を醒ませようと思い、後半はゾーンプレスを仕掛けました。これは成功でした。第四ピリオド開始時には十六点差まで開き、誰が見ても負けるはずがない試合の様相になりました。

ところがそこからがまるで別のチームになったような試合運びとなり、残り時間一秒で相手にラストショットを決められ大逆転負けを喫しました。しかも、残り三秒で相手にシュートを決められて一点差に詰め寄せられたもののスローインのボールをキープすれば終わりという場面。その、エンドラインからスローインされたボールを松本がツルツとファンブルして、それを拾われて決められたシュートなのです。四五年のコーチ歴の中で初めての出来事でした。

原因はこの試合の中での出来事だけでなく、ずっと引きずってきた様々な要因が一気に吹き出したのだと思います。しかし、それらを今更列挙しても仕方がありません。大切なことは九月のウィンターカップ予選に向けて素早く気持ちを切り替えることだと思います。そこで重要なことは選手一人ひとりが自分に対する怒りの炎を、次に納得のいく試合が出来るまで決して消さないことです。怒りは進歩の原動力です。悔悟は進歩に繋がりません。

埼玉を七月三十一日の早朝出発し、八月二日の午前まで徳島城北高校で合宿して二日の夕方長崎に着きまし

た。四日からは国体少年女子の練習が始まります。スタメンの五人（松本・松木・山口・川口・小田）が参加しますが、そこでインターハイの悔しさを爆発させて欲しいと思います。

【戦評 二回戦対富岡高校戦】

こんな幕切れがあるのか？という試合だった。若さとはすばらしい。若さとは恐ろしい。その両極端がコートに現れた試合だった……と思う。

文責 山崎 純男

三 アメリカ遠征

鶴鳴は、平成七年（一九九五年）八月上旬にアメリカ遠征をした。詳細は私の著書「大野慎子物語」に書いてある。その時、毎年アメリカに行くのは大変だから三年に一回アメリカ遠征をしよう、そうしたら在学中のどこかで必ずみんなアメリカ遠征ができるからということになった。その後アメリカ側とこちら側のさまざまな事情で三年に一回とはいかない年もあったが、今年（平成二〇年八月）八回目のアメリカ遠征が実現した。

実施要項詳細

参加者・保護者・指導者 各位

今回で八回目となる日米親善バスケットボール研修企画に参加希望のお申し出を頂きありがとうございます。原油高騰に加えて夏休み時期ということもあり、飛行機の席の確保及び料金交渉に難航しましたが、ようやく正式な料金を確定することができましたので、参加費用・日程・行程などをここに案内申し上げます。本研修を通じて皆様の夢を大きく広げるとともに、バスケットボールへの愛着を深めることができるよう最善の努力を致しますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

国際教育コンサルティング ガイヒーリー・ジャパン

一日 程 別添資料

二 参加費用 三〇万円

福岡発仁川経由ロスアンゼルス往復航空運賃エコノミー

米国における団体移動交通費

ロスアンゼルス観光・宿泊（一部屋四名原則）

トーナメント参加費用

海外旅行傷害保険

通訳経費

（注）原則としてロスアンゼルス滞在期間中の食費は前記費用に含まれていません。

三 海外旅行傷害保険明細

傷害死亡 一千万円 傷害後遺障害 一千万円

治療・救済費用 一千万円 疾病死亡 一千万円

（疾病応急治療・救済費用） 三百万円

賠償責任 一億円 携行品 三〇万円

航空機寄託手荷物遅延 一〇万円 航空機遅延 三万円

四 支払のご案内

支払いは航空運賃（東元旅行社）企画経費（ガイヒーリー・ジャパン）ともに山崎先生より一括して払い込まれていますので、各自の支払いについては山崎先生の指示に従ってください。

航空運賃 十九万円 東元旅行社

企画経費 十一万円 ガイヒーリー・ジャパン

振込期限 平成二〇年十二月三十一日（一括でも分割でも可）

## 五 企画取扱責任

本企画は国際教育コンサルティングガイヒーリー・ジャパンが責任を持って企画・運営致します。

なお、旅行形態は企画手配旅行で東元旅行社が旅行取扱となり、保険はAEUが引き受けるものです。現地のトーナメントはサンガブリエルバレーバスケットボールチームヘッドコーチのライル・ホンダ氏が手配を行います。

二〇〇八鶴鳴クレインズアメリカンフレンドシップ ファン&バスケットボールツアーロスアンジェルズ

八月十八日（月）出発 福岡 ロスアンジェルズ（アジアナエアライン）

福岡（十八）十七時二〇分 一八時五〇分（仁川）二〇時二〇分 十六時五〇分（ロス）

八月十九日（火）デイズニールランド

八月二〇日（水）ショッピングモール

八月二一日（木）ユニバーサルスタジオ

八月二二日（金）バスケットボールキャンプ オレンジカウンティ

八月二三日（土）バスケットボールキャンプ サンタマリア ネット

八月二四日（日）出発ロスアンジェルズ 福岡（アジアナエアライン）

ロス（二四）〇〇時二〇分 〇五時〇〇分（仁川）〇九時三〇分 一〇時五〇分（福岡）

宿舎 ヒルトンアナハイム

初日と二日目の報告をします。サプライズは出発の空港で起きました。仁川の空港で背の高い外人が選手に話しかけています。あとで誰だったのか聞いたら「フェニックスサンズのコーチだとか言っていました」です。すって。「なにっ!」といって私は彼の姿を捜しましたが彼はビジネスクラスのラインに並んでいるしこっちはエコノミークラスのラインに並んでいるので手を振るだけ。

機内で名刺交換だけしましたが、一〇時間も同じ機内にいながら挨拶しただけとは…もったいないなかつたなあ。話をチームのことに戻します。着いた日は十八日の夕方だったのでホテルでくつろぐだけの時間しかありません。夕食はホテルの隣りのスポーツバーで摂りました。

その後ホテルのプールでひと泳ぎしてその日はおしまい。翌日は終日デイズニールランド。東京のデイズニールランドに私は行ったことがないのでよくわかりませんが、本家本元ってやっぱりどこか違うのかなあ？この日、九時半に打ち上げられる花火を見るまで選手たちはずっとデイズニールランドに入り浸りでした。私は退屈だったので途中でホテルに戻って昼寝をしました。

三日目。この日は終日ウェストフィールドというつかいモールでショッピング。でも、高校生の買い物って小物かスポーツ用品ばかり。高級な衣類やバッグなどは目当てじゃないので午後四時半には切り上げてホテルに戻りました。この日の夕食はガイのおごりでピザのデリバリー。私は一番小さなかけらを食べて満腹。アメリカの食べ物や飲み物はとにかくでかくて私向きではありません。ゲーブ。

四日目。ナッツベリーファームという遊園地で終日遊びました。話が少し長くなります。ナッツベリーファームは直訳すればナットさんのイチゴ農園となります。が、実は富士急ハイランドのようなでっかい遊園地なのです。では名前がなぜ農園なのかというと、ウォルターナットさんというイチゴ農園を営んでいた人がそこを潰して作った遊園地だからそんな名前にしたのだそうです。

九〇年の歴史があります。アメリカで最初の遊園地だそうです。このマスコットキャラはスノーピーです。スノーピーの作者はチャールスシュルツさんで彼の出身地はミネソタ州のセントポール市です。ですからミネソタ州の州都ミネアポリスにある北米最大のショッピングモールであるモールオブアメリカの飾り付け

はどこもかしこもスヌーピーだらけです。モールオブアメリカは長崎の浜町全部をひとつのビルにしたようなでっかいモールで、その中央の空間はジェットコースターや観覧車がある遊園地になっています。

ナッツベリーファームはウォルターナットさんが提案して建設したもので、ここはキャンパススヌーピーとも呼ばれています。そんなわけで、ナッツベリーファームは独占契約的にスヌーピーをマスコットキャラとして使っているわけです。

ですから、鶴鳴の選手からおみやげでスヌーピーグッズを買った人は、「スヌーピーは日本のどこでも売ってるぞ」といわずに品物をよく見てください。品物のどこかに書いてあるナッツベリーファームという文字。これはナッツベリーファームのグッズ売り場にしかない品物だという意味ですから。ちょっと恩着せがましいですけど…。

さて、ホテルからはなんとガイが手配してくれたリムジンで出発。ヒエーツ！。リムジンの中ではハリウッドスターになった気分の鶴鳴選手たち。到着後すぐ入り口の前で記念撮影。この入場料は団体割引で一人約五三ドルぐらいなのですが、ガイがコーチホンダの税金番号で申込んでくれたので市民割引になったらしく、一人約二二ドルになりました。なんと六八%引き！。その差額が夕食のスペアリブに化けました。これは一人約二九ドル。選手にとってはリッチでとても楽しい一日となりました。

五日目と六日目は試合日。試合が行われるのはアメリカンスポーツセンターというでっかいジム。なんとバスケットコートが十五面とれるんです。初日はガランとしたジムのコートだけを使って試合。翌日は土曜日なのでにぎやか。一〇コートで同時に試合が行われている中で鶴鳴のゲームも行われたので、他のコートで試合が終わったチームは興味ありげに鶴鳴のゲームを見学。

鶴鳴の選手たちもアメリカの選手の保護者や大会関係者からいろいろ質問されたり話しかけられたりして、アメリカで試合をしている雰囲気味わいました。試合はまず、プレゼント交換、試合、そして記念撮影という手順で進みます。

2008.8.22 friendship game												
CRANES						ORANGE COUNTY RYTHM						
#	NAME	s	min	pt	f	#	NAME	s	min	pt	f	
4	松本 166日野	s	28	5	0	3	A162	s	15	0	0	
5	松本 168式見	s	32	4	0	14	B166	s	18	2	1	
6	山口 165諫早	s	20	5	0	15	C172	s	28	3	0	
7	森 167淵		2	2	0	21	D169		20	3	0	
8	木村 160横尾		14	4	0	31	E165	s	32	2	0	
9	吉谷 158大村		13	2	0	32	F156		21	2	1	
10	川畑 162小郡		14	3	0	34	G167		10	0	2	
11	小田 153折尾	s	20	3	0	50	H167	s	21	8	1	
12	仲野 160江平		8	3	0	51	I175	s	19	12	4	
13	一瀬 154原北		9	2	0	25	J170		16	2	0	
14	赤島 154式見											
15	川口 177岩屋	s	21	4	0							
16	峰 154橘		19	3	0							
			200	40					200	34		

  

2008.8.23 friendship game1												
CRANES						SANTA MARIA SWOOTH						
#	NAME	s	min	pt	f	#	NAME	s	min	pt	f	
4	松本 166日野	s	39	8	0	2	K165	s	15	3	0	
5	松本 168式見	s	39	6	3	8	L158	s	18	4	1	
6	山口 165諫早	s	34	8	2	10	M165	s	28	12	0	
7	森 167淵					21	N167		20	5	1	
8	木村 160横尾		22	2	0	23	O165		32	0	1	
9	吉谷 158大村		1	0	0	34	P170	s	21	19	0	
10	川畑 162小郡		15	4	1	44	Q176		10	5	0	
11	小田 153折尾	s	10	0	0	45	R170	s	21	6	0	
12	仲野 160江平					50	S175		19	3	0	
13	一瀬 154原北					55	T167		16	9	0	
14	赤島 154式見											
15	川口 177岩屋	s	40	12	0							
16	峰 154橘											
			200	40					200	66		

  

2008.8.23 friendship game2												
CRANES						LOS ANGELS NETS						
#	NAME	s	min	pt	f	#	NAME	s	min	pt	f	
4	松本 166日野	s	34	13	0	0	U170	s	18	6	0	
5	松本 168式見	s	28	6	0	1	V160	s	30	0	1	
6	山口 165諫早	s	28	7	1	3	W165		17	4	0	
7	森 167淵		3	0	0	6	X172	s	24	2	0	
8	木村 160横尾		1	1	0	10	Y153		10	0	0	
9	吉谷 158大村		11	3	0	13	P170	s	26	15	1	
10	川畑 162小郡		26	6	3	14	Z164		18	2	2	
11	小田 153折尾	s	9	0	0	22	AA168		19	0	1	
12	仲野 160江平		6	0	0	24	AB167		10	12	4	
13	一瀬 154原北		3	3	0	23	AC175		10	0	0	
14	赤島 154式見					31	AD176	s	18	4		
15	川口 177岩屋	s	39	2	0							
16	峰 154橘		12	3	0							
			200	44					200	45		

備考：SWOOTH34とNETS13はたぶん同一人物（助っ人？）

コメント

アメリカのバスケットボールは、プロ・大学・高校・中学・ミニの段階に応じてルールが違うのはもちろん、それが州によっても違うのでそれを知って試合をしなければなりません。高校の試合はほとんどの州で二〇分ハーフ制を採用しています。クォーター制はありません。そしてゲームクロックは流しです。ですからアウトオブバウンズになっても時計は動いています。加えてショットクロックはありません。

極端な話ですが、試合開始早々にシュートを決めてそのあと相手にゴールを許さずマイボールにすれば、以後は攻めずにボールを回して試合終了までストーリーリングしてもいいわけです。相手がたまたま仕掛けてきたらそれを利用して攻めるか、ファウルを買ってまたボールをキープする。そんな試合運びができます。さ

らに八秒ルールもないのでフロアーバランスが整うまでバックコートで何十秒もボールをキープすることができます。

「こんなルールはバスケットボール技術の向上という意味ではマイナス面が多いんじゃないか？」と、今までに何度もアメリカのコーチに尋ねましたが、「うん、俺もそう思う。でも、どの州でも高校の試合はそのやり方なんだ。ウーン…」という答えが返ってきます。今回はその問いは繰り返しませんでした。

慎子物語りにこの話は登場しますが、その時登場したウイスコンシン州クレイトン高校のランガムコーチは、前述の回答のあと「ウーン…」ではなく「そのルールを実行すればどの学校でも得点板と残分板だけでなくショットクロックの電光板も設置しなければならなくなり、財政上それを義務づけるのが難しいから高校生の試合はショットクロックなしになっているのだと思う」と答えました。

ずっと昔、日本国内での試合の残分板はめぐりでやっていたし、ショットクロックは二〇秒で黄色の旗を振り、二五秒で赤の旗を振り、三〇秒でホイッスルを吹くというやり方の時代がありました。そんなカッコ悪いやり方はアメリカでは発想の中にもないのでしょうか？

選手は私から事前にそれを説明されていても実際にイメージが湧きません。ですから三試合ともジタバタドタバタした試合でした。そんな不慣れが理由ではなく、二試合目のサントマリアには力で負けました。サントマリアはマンツーマンに対してもゾーンに対してもオールコートプレスに対してもきちんとした攻撃システムを用意しており、時間をかけて確実に相手を崩して攻めます。

これはショットクロックと八秒ルールがないからこそできるやり方ではありますが、参考になる点もたくさんありました。最後の試合は勝てる相手でしたが折角だからみんな出してやるうとして交替させているうちに少しずつ追いつかれて逆転されてしまいました。

さて、土曜日の試合は午後一時に終わり、その日の深夜〇時二〇分にロスアンジェル空港を発つまで時間があるのでその間少し遊びました。まずはあの有名なサントマモニカビーチ。岸から海までの遠いこと遠いこと。折角来たのだから岸边で少し泳いで次はハリウッド見学。中心部の石畳には歴代スターの足型があります。その中のひとつ、ドナルドダックの足型と一緒に記念撮影をして帰途につきました。ツアー報告はこれでおしまい！。あとはウィンターカップ予選に向けて集中します。

【広島遠征・鶴鳴招待】於 広島皆実・鶴鳴

平成二〇年〇九月十三日～十五日 対戦 広島皆実・徳島城北

試合数 十四本(二〇分×十〇 一〇分×四)

勝 敗 九勝五敗

出場時間 松本一二四分・松木百七四分・山口百九八分

森欠場・川畑四七分・吉谷二一分・木村八五分

小佐々一七七分・峰三七七分・川口二一〇分

小田一八七分

コメント

皆実に招待されての練習試合だったのに、ハーフゲーム一〇本のうち、皆実と対戦したのは二本だけであとは城北との対戦だった。なぜこんな本数になったのかは思い出せない。城北との結果は五勝三敗。三敗の内訳はすべて、三九対四一、三六対四一、四六対四七と僅差だ。八本全部勝てる試合の流れだったが、負けた三本はいずれも突き放せるチャンスを活かせず、粘られているうちに決定的なプレイを城北が最後にものにした試合だった。しかし、鶴鳴がふがない試合をしたわけではない。むしろ城北の粘りを誉めるべき試合だった。

が、私には、今年の鶴鳴には突き放せるチャンスと決定的なプレイをものにつけないことがしばしばあるということについてずっとわだかまりがある。これは、特定の人物がどうかこうとかいうものではなく、

チーム全体の空気がそうなのである。私の方針にブレはなく、教え方もことばの使い方もいつもと変わらないのだが…

平成二〇年〇九月 ウィンターカップ予選 優勝 スタメン 松本 松木 山口 川口 小田

#### 【案内文書】

正月合宿中の一月三日、森がドライブでシユートに行こうとして転倒し、右膝前十字靭帯と半月板を損傷して二月四日に手術。本来今年度はスタメンで活躍するはずだったのに、その後通算五大会（一月中旬の九州春季大会長崎県予選会、二月中旬の九州春季選手権大会、四月中旬の県下春季選手権大会、六月上旬の県高校総体、同中旬の九州大会、七月下旬のインターハイ）、期間にして約八ヶ月、ひたすらリハビリに専念してきた森が遂に復活しました。復活宣言は八月三〇日。中尾トレーナーからゴースインが出たのです。

私は、この予選を突破したら十二月の本大会には森がなんとか間に合うだろうと思っていましたが、まさか予選に間に合うとは思っていませんでした。森も感慨ひとしおでしょう。なんとしても東京体育館に連れて行ってやりたいと思います。

…と、ここまでは八月三〇日に書き、続きを十三・十四・十五の広島遠征のあとで書くつもりでした。ところが翌三一日、森はまた同じところを傷めたのです。ハーフコート四対四の簡単な練習中でした。手術をしていては今年度の試合には間に合いませんから、装具で十二月の本大会にはコートに立たせ、その後手術をさせたいと思っています。他のチームもそれぞれの思いを秘めてこの大会に臨んでくると思いますが、鶴鳴の森以外の選手たちがそれを上回る気迫で臨み、森にウィンターカップの切符をプレゼントして欲しいと思います。

ところで、森のそんな騒動と相前後して主将の松本が足首痛を訴え、MRI検査をしたところ距骨ドームの離断性骨軟骨炎と診断されました。今回の痛みは捻挫や打撲によって生じたものではなく、本人もなぜ痛くなったのか理由が分からない痛みです。おそらく小学校時代から現在に至るまでの間の度重なる捻挫によって傷んだ部位の痛みがこのタイミングで出現したのではないかと思われます。

しばらく治療とりハビリに専念しましたが、広島遠征でのテスト飛行の結果、私は「ウィンターカップ予選には支障なし」の診断を下しました。コーチ歴四五年、順風満帆だったことは一度もありません。本番を迎えるまでには必ず何かが起きます。しかし、それも含めてチームを最善の状態にもっていくのがコーチの仕事。今更翻弄されたりはしません。がんばります。

#### 【結果報告】

松本の応急処置にはセレコックスというクスリを使いました。おかげで先週の広島遠征と今大会はパフォーマンスが落ちることなく凌げました。しかしこのあと松本は長期間休ませます。クスリは痛みを和らげるとか炎症を抑えるとか、傷害を受けたことによって発生するさまざまな症状を緩和させるために使うものであって、傷そのものを治すものではありません。傷そのものを治すのは生き物が本来持っている自然治癒力です。

松本の傷害はセレコックスによって痛みは和らげられたものの、傷めた部分を酷使したので傷そのものはむしろ悪化しているはず。だから休ませなければならぬのです。みなさん、ケガを治すのにガマの油や魔法や神の手は存在しません。選手のケガについては指導者が「させない」勉強をすることが何より大事で、次に兆候を早期発見する目を持つことが大事です。さらに、ケガをさせたら治るのを待つ根気がまた大切です。

さて、試合のことについてお話しします。先週広島遠征をした時に、選手たちがとてもいい顔で試合をしているのを私は感じ取りました。その時私は、「いつもこんな顔で試合をしてくれば楽しいんだけどなあ」と思いました。スポーツには必ず勝ち負けがつきまといますが、たとえ負けてもやっている人が楽しんでいて観る人々が清々しい気持ちになる、それがスポーツの良さだと私は思うのです。鶴鳴の選手たちは広島遠

征依頼ずつと「こんな顔」を保ち続けてくれました。

初戦の西海学園戦は「こんなシュートまで落とすのか？」と思うほどよくシュートを落としました。二回戦の清峰戦は第三ピリオドが終わった時は一点負けていました。でも、選手たちの態度から不安や苛立ちは微塵も感じられませんでした。こんな試合をしてくれるなら何も言うことないです。

#### 【戦評 長崎商業戦】

見応えのある試合だったと思う。ベンチからの指示の声、コート上で選手たちが確かめ合ったり励まし合ったりする声、派手なプレイではないけれど主導権の取り合いの激しいつばぜり合い。どれをとっても見応えがあった。冒頭の…は、自戦解説なので自画自賛と言われるかもしれないと思ってちょっと躊躇した。しかし、双方の選手に何か賛辞を送ってやりたかったので敢えて書いた。いつもこんな試合が見られればいいなあ。

決勝戦の戦評ではないが、どうしても紹介したい試合がある。それは準決勝の鶴鳴対清峰の試合だ。いつもベスト四のチームを脅かしている清峰だが今年は精彩がなかった。聞けばシューターがケガをしていたらしい。そんな不完全燃焼を払拭しなかったのだろう。三年生は県高校総体で引退するケースが多い中、清峰は三年生が全員本気でこの大会に臨んでいた。鶴鳴と接戦をしたからではなく、清峰の三年生の戦いに臨む姿が観衆の心を奪った。拍手だ。

文責 山崎 純男

#### 四 高城台ミニバス

平成二〇年度から、東長崎地区の矢上小学校は生徒数が増えたのでもう一つ小学校を創らなければならなくなつた。オナーズビルにできた高城台小学校がそれである。四月に新入生になった児童以外は矢上小学校からの転校である。

開校時にバレーボール専門の教師が着任し、バレーボール部はさっそく立ち上げられて活動を始めた。しかし、こどもたちの中にはサッカーをしたい子もいるしバスケットボールをしたい子もいる。保護者たちの中に若い頃バスケットをしていた人たちが数人いて、ミニバスは立ち上げたいと思っていた。しかし指導をしてくれる先生がいない。保護者たちの中で私の勤務先の短大事務局に務めている工氏がいたので、彼が特命大使で私のもとに派遣された。

多分、当時私が長崎県バスケットボール協会の理事長をしていたので、誰か指導者を紹介して貰えないかという気持ちで打診してきたのだと思う。私は「うん、俺がやってやるよ」と二つ返事で引き受けた。

チームを作るにはまず学校の許可を受けなければならない。それは工氏が学校と掛け合ってくれた。クラブ活動として成立するにはバレーボール部が既得権で全面的に体育館を独占使用しており、小学校の部活動を新設してそこに割り込むのは学校もなかなかクビを縦に振らないので、最初は市教委に届け出てスポーツ少年団活動として動き始めることにした。体育館の使用は、社会体育活動の学校開放割り当てとして、自分の学校の体育館で活動するのだが借用願いは毎月市教委に申請して許可を受けてから使用することになった。しかし、ともあれ週二回、火曜日と木曜日の夕方練習できることになった。

保護者各位

平成二十一年三月十六日

保護者各位

監督 山崎 純男

平成二十一年度を迎えるにあたっての確認事項

平成二〇年一〇月二日に発足して五ヶ月が経過しました。そして間もなく六年生六人が卒業し四月に新しい年度を迎えます。そこでいくつかの確認をしたいと思います。

本クラブは、発足時に高城台小学校を練習会場として借用するために学校を通して長崎市教育委員会に社会体育団体として登録をしました。この登録は無料です。あと、有料の登録がふたつあります。ひとつは長崎市教育委員会に届け出るスポーツ少年団。これは登録料がひとり七〇〇円かかります。もうひとつは県バスケットボール協会に届け出るチーム登録です。これは、チーム登録料が八千円、個人登録料が千円かかります。

このふたつにはまだ登録していません。理由は、発足して間もないので登録して公式試合に出場するレベルではないからです。公式試合は協会主催の試合が大半でスポーツ少年団としての試合は年間一回くらいです。ですから、公式試合に出たいと思うならばまず協会に登録しなければなりません。次年度から登録をするかしないか保護者間で意見をまとめてください

#### 経 費

いまのところすべて鶴鳴のボランティア寄付（小さいゴールポストやボール等）で賄っています。それは、まだ本格的に強化して対外試合で戦えるチームではなく、体験入部自由や年齢制限なしなど、参加を拘束していないので部費等徴収しなくなりました。公式試合に出たいとなればユニフォームや登録料や活動費の経費がかかります。このことも今後どうするか保護者間で意見をまとめてください。

#### 保 険

発足当初、「まだ遊びのレベルなので傷害保険にはまだ加入しませんから、もし活動中にケガをしたらご家族の保険証で処理してください」とお知らせしました。本格的に活動するならば県体協を通じてスポーツ傷害保険に加入した方がよいと思われれます。ひとり六百円です。

#### 対外試合

対外試合はほとんど土曜日と日曜日に行われます。登録して活動するとなると土曜日と日曜日の活動が生じてくるわけですが、土曜日と日曜日の私は自チームの活動があるので動けません。今後も私は本クラブの支援には自チームの次に優先して協力しますが、まだ現役監督であり協会の理事長でもあり、私に関わらなければならぬ仕事がたくさんありますので、高城台に掛かりつきりというわけにはいきません。そこで今後の活動が充実したものになるようにコーチをしてくれる方を見つけられた方がよいと思います。ご検討ください。

団員としての在り方 チームの中には、自分本位で他人の迷惑を顧みない子もいます。技術が稚拙なためにチームの足を引く張る子もいます。落ち着きがなくていつも誰かに注意されている子もいます。熱心な子やまじめな子の中にそんな子が混じっているわけですから当然小競り合いが起きたりもします。しかし私がおっとも大切にしているのは、まじめな子も迷惑をかける子もひっくるめてチーム活動（ことばを変えれば社会生活）の中でしつけをしていくことです。しつけとは、一列に並べて「キオツケ！礼！」と挨拶をさせることではありません。悪いことをした子にペナルティを与えることでもありません。他人を傷つけたり傷つけられたり、親切にされたり親切にしたり、という経験が自分の中に財産として取り込まれていく。それをひとつとして見逃さないで見守っていくのが大人の使命だと思っています。どうか自分のお子さんをしっかりと見つめてください。

#### 一〇月十四日のブログ

新設の小学校のミニバスの立ち上げと指導に関わって今日が三回目。こどもたちも慣れてきて個々の地が出はじめた。保育園の年長児から小学校六年生までの階層から成っているが、どの子も「今日も楽しかったあ」という気持ちで帰さなければならぬ。こどもというのは本来わがままで、自分だけが勝つ、自分だけが成功することが最優先になる。

だから、どんなに公平に班分けをしても必ずだれかが不平を言うし、思うようにならないとみんなを不愉快にさせるような言動をとる子が出てくる。それを「コラ！」で抑えるのはたやすいが、そんな子にも「楽



しかったあ」で帰ってもらわなければならないのだ。

また、こどもたちの中には小さい子に思いやりと心配りをもって接している子がいる。それも見逃してはならない。私はアンテナの本数が多い方だと思っっているが、今日はそれをフル稼働させても間に合わないくらい大変だった。脳みそが沸騰しそうだった。

○一月三〇日のブログ

立ち上げに関わった高城台ミニバスがダイヤモンドカップに参加できることになりました。男子は六年生五年生は無条件で四年生から数人、女子は上級生の人数が少ないから六年生五年生四年生は無条件で、三年生から数人。男女とも十五人エントリーして参加させてもらおうと思います。

まだまだ公式試合に出るにはほど遠いチームではありますが、たとえ全敗しても大事な思い出作りになるだろうと思って申し込みました。五四人いる中から三〇人のエントリーを決めるわけですから二四人は漏れるわけで、幼稚園の年長さんや一年生や二年生までは漏れてもがっかりしないでしようが、ボーダーにいる子どもの線引きが難しいです。漏れたこどもたちの心のケアのことを考えて今から私の心は揺さぶられています。

後日談

いろんな人から「自分のチームも指導しながらミニバスまで面倒見て大丈夫ですか?」と言われる。が、駆け出しの頃ならいざ知らず今更毎日コートで選手を監視していなければ心配だという歳でもない。また、選手は高城台の練習日には私の車に乗れる四人をアシスタントに連れて行くのだが、その選手たちにとつてみて、鶴鳴で練習をしないわけだが、それも毎日コートで汗を流さなければ練習にならないのではなく、こどもたちに教えるのも自分の成長のためにはおおいに役に立つ。特にバスケットボール用語なんかまるで知らないこどもたちにわかりやすく説明するのは知恵と工夫が要る。それがまた自分のためになるのだ。

練習中に起こる出来事もまた半端じゃない。小学校の低学年はまだ社会性が身に付いていないからほとんどなこどもが自己中心的である。思い通りにいかなかったらコートの中で大の字になって寝てしまひ、どんなことばをかけても動かない。そんな子は「ワイモツプがけがだあ」などと冗談を言いながら両足を引っ張ってコート外に引きずり出す。それをできるだけ叱らずにやらなければならない。

そうかと思うと別の場所では取っ組み合いのけんかが始まる。バスケットを如何にして教えるかに加えてそんなことの処理もてきぱきとやらなければならないのだ。また、バスケットを教えるに当たつても、こどもたちは面白くないことはやらない。バスケットをよりうまくするには大切な技術であつても面白くなければこどもたちの中にはそれをやらすに勝手にボール遊びを始める子も居る。叱らず、わがままなこどもたちをつましく誘導しながら「うまくできた!」とか「バスケットっておもしろい!」を感じさせなければならない。こんなことは鶴鳴で黙々と練習しているだけでは決して得られない貴重な体験なのである。

練習で組み分けするのにピプスが必要になる。七〇人分を確保するにはずいぶんお金がかかる。そこでピプスは鶴鳴のお古を補正して使った。低学年の子は幼稚園・保育園の子はそれでもワンプイスみたいになる。

ボールは鶴鳴のへそくりでミニバス用(五号)の皮革ボールを数個寄付したが、こどもたちの中にはマイボールを親から買つて貰つて練習に持つてくる子がたくさんいたので練習には困ら



2009.09.22 時津小学校にて  
高城台ミニバス初の対外試合  
旧鶴鳴ユニフォームを繰上げて着陣

なかった。ただ、二年生以下の子や幼稚園や保育園の子には五号ボールでも大きすぎる。そこで小学生用のバレーボールを買ってきてそれに皮革用の茶色ペンキを塗り、インターネットで購入したゴールスタンドをコート隅に置いてキッズコーナーとし、高さはこども立ちの力に合わせて調節してシュート練習や簡易ゲームをさせた。

チーム登録はしていないが他チームから招待されて練習試合をした時は、鶴鳴ではもう使っていない古いユニフォームを嫁に裾上げして貰って使った。これは愉快だった。対戦相手のミニバスチームの選手も鶴鳴のことは知っているし、指導者が鶴鳴の監督だということも知っている。その上ユニフォームは鶴があしらわれた鶴鳴のユニフォームだ。それが、CRANESと書かれた青いバスで会場に乗り付けるのだ。それを見ただけで相手は緊張する。しかし中身はバスケットの体をなしていないので四〇対二などのスコアで高城台が大敗する。それでもこどもたちは楽しそうだった。

#### 【招待合宿】於 鶴鳴

平成二〇年十二月十三日～十四日 対戦 佐賀清和・広島皆実

試合数 七本(二〇分×五 一〇分×二)

勝敗 六勝一敗

出場時間 松本一八分・松木一三分・山口一一分

森五六分・川畑六分・小佐々〇分・川口二〇分

小田六八分

#### コメント

森がこの招待合宿から復帰した。スクリメージ七本中五本スタメンで出場した。十三日(土)は広島皆実と佐賀清和が来てくれて三チームの強化試合。十四日(日)は皆実と鶴鳴だけで強化試合。実はこの合宿は大きな犠牲を伴ったの実施だった。十三日(土)は午後六時からブリックホールで松山千春のコンサートがある。

これまで長崎で行われた彼のコンサートを私は見逃したことがない。しかも今回は不安定狭心症による療養の後の復活コンサート。チケットをしっかりとゲットし、準備万端で臨んだ。そんなことはすっかり忘れて広島皆実の村井先生から「十三・十四と遠征したいのですが…」という連絡が入った時「うん、いいよ。空いているから」と返事をしてしまった。

ダブルブッキングだと気付いたのは十二月に入ってからだった。強化試合はせいぜい遅くても夕方五時半くらいまで。だから千春のコンサートに行こうと思えば行けないこともない。しかし、練習試合だけではなく、いろいろバスケットの話もしたいと思って来ている村井先生を「オレ、千春のコンサートだから」と置き去りにするわけにはいかない。

だから私のチケットは合田先生の奥さんに寄付してしまった。大きな犠牲というのはそのことである。しかし、今回の合宿はウィンターカップに向けての調整と確認ができたという意味では大きな犠牲を上回る収穫があった。それでヨシとしよう。

平成二〇年十二月 ウィンターカップ 三回戦 スタメン 松本 松木 山口 川口 森

#### 【案内文書】

右膝前十字靭帯断裂手術後のリハビリが順調だった森は、八月三十一日に同じ箇所を再断裂し、ウィンターカップ予選には出場できませんでした。私と本人と保護者と医師の話し合いの上、森は東京体育館のコートに立つために再手術をウィンターカップの後に行くと決め、再びリハビリ生活に入りました。

コートに立つ…とは言っても、私は高校生活の思い出作り程度でしか森をコートに立たせてやることはできないだろうと思っていました。ところが十一月の中旬頃から「ひょっとしたらこれはいけるぞ」と思い始めました。

前十字靱帯は切れたままなのでテーピングで固めた上に装具を装着しなければプレイはできませんが、少しずつ練習に参加し始めた森を注意深く見つめながら私の頭の中では森が入ったスタメンで試合をしているシミュレーションが毎日描かれては消え、描かれては消えるのです。県新人戦が終わってから私は主将の松本に「ウィンターカップは森でいくぞ」と告げました。

もちろん森のプレイはケガをする前に比べたら制限されるものの、それでも私のシミュレーションの中では小田を起用するよりも機動力のあるバスケットが展開されるのです。無理なら元通り小田にすぐ戻せばいいことですからひとつこれでやってみます。

もうひとつお知らせしなければなりません。私は人件費節約のためにアシスタントコーチを置きません。その欄には選手またはマネージャーを置き、一人でも多くの部員を公式試合に連れて行ってやるように計らいます。しかし今回はその欄も削除し、実質有用な人員だけで参加します。これは学校の経費の負担を軽減する意味と、選手一人ひとりに自己診断をしてもらう意味。つまり、古い話になりますが中学生が金の卵と称されて企業から働き手として引く手あまただった昭和三〇年代とは異なり、「今は自分に何ができるかをアピール出来ない者にオフアールはないよ」という時代になったんだということを、選手に限らず現代の若者に認識して貰いたいという意味があります。

だからといって、エントリーされたメンバーのすべてが有用であるとは限りません。長年がんばった褒美としてエントリーされた者もいます。蛇足になりますが、有用の意味は選手として試合に出せる力量を持つていることではありません。総合的な人間力のことを意味します。

#### 【結果報告】

初日

都大路ではないけれど、これまで松本・松木・山口・川口の先頭集団を小田と森が第二集団で追いかけていたレースだったのに、大会前日になって小佐々が突然小田と森を追い越して先頭集団に追いついてきました。有り難いことこの上なしです。夜、WBCボクシング世界タイトルマッチをテレビで観ました。テレビ観戦なのに拍手してしまいました。鶴鳴がどこまでいけるかわかりませんがこんな試合をしたいと思いた。

二日目

よく持ち堪えてくれました。乱戦になれば小田、パス回しとリバウンドでは小佐々、シューティングでは森と、それぞれが自分の仕事をきちんとやってくれました。試合終了直前にシュートを決められたあとのエンドラインスローインではインターハイとまったく同じ場面が再現されました。スローインされたボールを受けた松本はダブルチームを食らいながら逃げ場を失いました。

それでも松本はうろたえず、ライン際で死に体になりながらもフロントコートにいる川口にショットガンパスを投げました。ボールが飛んでいる間に時間は経過し、もし相手からボールを奪われてもシュートに持ち込むまでにまた時間が経過するので逆転されることはないと思えたのです。川口がファンブルしながらそのボールを受けた時点で負けはなくなりました(対福島西六七 六一)。松本の見事な判断でした。

三日目

「重い！」

試合開始早々私はそう感じました。二日連続でギリギリの逆転勝ちだった鶴鳴に、常葉と互角に戦う力は残っていませんでした。それでもナイスプレイは時々出ました。が、最後の一步の踏ん張り利かなくなっていたのでしょうか、それがことごとくポロツポロツと外れるのです。そんなわけで、第二ピリオドで勝負が決まってしまうました。

でも、いろんな事件や事故が立て続けに起こり、二年連続全国大会に出ていなかった鶴鳴をここまで引っ張ってきた三年生には「おつかれさま」と「ありがとう」のこぼれを送りたいと思います。そして、直接応援に駆けつけていただいた方々やたくさんの方々のメールメッセージから「二年も全国大会に出ないとこんなに心

配をかけるし、久々に出るとこんなに喜んで貰えるんだ」ということを痛感しました。感謝です。

【戦評 対常葉学園戦】

足と気力ではどこにも負けないと自負している常葉に対して鶴鳴のパスティングゲームがどこまで通用するか…と、期待したがそれは無理な話だった。

二日間ギリギリの逆転勝ちでここまでできた鶴鳴には常葉に対抗する足は残っていないかった。やはり、インターハイやウインターカップを勝ち抜いていくには、層の厚さと練習量が不可欠。心身共にアクシデントな中で、年間通してしっかり練習することがいかに大切かということを示した試合だった。文責 山崎 純男